Französische Suiten

Johann Sebastian Bach

J.S. バッハ　六つのフランス組曲より

第 *2* 番 ハ短調 *BWV813*

アルマンド *(Allemande)*

クーラント *(Courante)*

サラバンド *(Sarabande)*

エール *(Air)*

メヌエット *I (Menuet I)*

メヌエット *II (Menuet II)*

ジーグ *(Gigue)*

解説付き

解説 / 市花 真弓

●フランス組曲について

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (*Johann Sebastian Bach, 1685- 1750* 年) が作曲したクラヴィーアのための曲集　フランス組曲　*BWV812-817 (Französische Suiten BWV 812-817)* は、バッハがケーテンで過ごした 1722 年から 1723 年頃に作曲されたと考えられています。

この時期、バッハは先妻であるマリア・バルバラ・バッハを亡くし、2 度目の妻アンナ・マグダレーナ・ヴィルケと結婚しましたが、その時期の作品と推定されています。

「フランス組曲」というタイトルは、バッハ自身が付けたのではなく、後に付けられたものです。誰がどういう理由でつけたのかは不明ですが、曲調がフランス風であるからとか「イギリス組曲」との区別のためにバッハの息子たちが便宜的に付けたという節もあるようです。組曲は、いくつかの舞曲をひと組にまとめた構成となっています。

●第 *2* 番 ハ短調 *BWV813*

アルマンド (Allemande)

甘く優美なアルマンドから始まる第 2 番は、全体に歌うような旋律が魅力的な組曲です。*Allemande*（仏）は、「ドイツ風」の意味です。16 世紀のフランスでは「地面に足をつけた中庸の遅さ」の 2 拍子のダンスでしたが、17 世紀には作曲家によってテンポに、ある程度の自由度がある 4 拍子の舞曲にされました。

テンポや強弱を表記していない楽譜が多いと思いますが、参考程度に記させて頂きました。テンポは、*Allegretto moderato*。強弱は、全体に *P* から *mf* で、静かに歌う曲だと思います。最初の Sp. のフレーズが、この曲のモチーフとなっていますが、全体にフレーズ表記させて頂きました。左手の八分音符は、前半は、オクターブ部分はレガート。それ以外は、ノンレガートで演奏されている方が多いと思います。後半は、前半同様の部分と対旋律として奏した方が良い部分があります。フレーズ表記致しました。

装飾音に関しましては、前半に 1 箇所プラルラー。後半に 1 箇所モルデントが指示されているだけです。 (トリル (伊 *Trillo*)、プラルラー (独 *Praller*) 又はプラルトリラー (独 *Pralltriller*) とも言います。) は、一たん 2 度上の音に、 (モルデント (英・独 *Mordent)*) は、一たん 2 度下の音に出て戻ります。

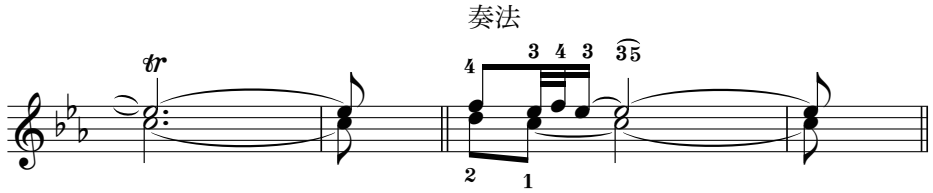
クーラント (Courante)

後期ルネサンスからバロック時代の 3 拍子の舞曲の一種です。古いフランスの社交舞踏から由来した 2 分の 3 拍子または 4 分の 6 拍子の交代を伴う活発な舞曲で、バロック時代の組曲では一般にアルマンドとサラバンドの間におかれます。

クーラント（フランス語：*courante*）は、コレンテ（イタリア語：*corrente*）とも言います。フランスタイプのクーラントとイタリアタイプのコレンテに分かれます。イタリアタイプのコレンテは、よりテンポが早く、第 2 番はイタリア風コレンテの性格を持ちます。

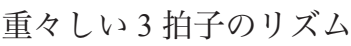
フレーズの取り方は、演奏者により様々だと思いますが、全体にフレーズ表記致しましたので参考にして頂けたらと思います。

装飾音は、前半の小さい記号で表記しましたプラルラーは、1 回目は入れずに 2 回目は入れて演奏するか、または全く入れずに演奏しても良いと思います。後半の ⌒ (アッポジアトゥーラ (*appoggiatura* (伊) またはフォアシュラーク (独) と呼ばれます。）とトリルは、以下のように演奏して下さい。



サラバンド *(Sarabande)*

サラバンド（フランス語 : *sarabande*、イタリア語 : *sarabanda* サラバンダ）とは、3 拍子による荘重な舞曲です。組曲の中で、最も遅い舞曲となっています。

サラバンドの一般的なリズム型は、 となります。

特徴として、重々しい 3 拍子のリズムであるという点 (4 分の 3 拍子あるいは 2 分の 3 拍子) 以外に 4 小節単位の小楽節 2 つからなる 8 小節分の大楽節である事。上記リズム型の第 2, 3 拍でアウフタクトとして、次の小節の第 1 拍につなげるというリズムも特徴と言えます。

第 2 番のサラバンドは、細かく旋律が動く点においては異色と思います。最小限、フレーズ表記致しました。強弱も表記致しましたので、参考にして頂けたらと思います。

装飾音は、前半の小さい記号で表記しましたモルデントは、1 回目は入れずに 2 回目は入れて演奏するか、2 回共に入れて演奏しても良いと思います。1 小節目のような前打音は、頭合わせとなります。8 小節目の前打音とトリルは、以下のように演奏して下さい。

